

都道府県・ 指定都市番号	52	都道府県・ 指定都市名	川崎市	研究課題番号・校種名	1 中学校
				教科名	技術・家庭 (家庭分野)
研究課題	<p>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</p> <p>(イ) 家庭分野の内容「B衣食住の生活」の食生活において育成を目指す資質・能力を明確にし、これからの生活を展望して課題を解決する力やよりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成するための指導計画及び指導方法と学習評価の研究</p>				
ふりがな 学校名 (生徒数)	<p>かわさきしりつ にしたかつ ちゅうがっこう 川崎市立 西高津 中学校 (890人)</p>				
所在地 (電話番号)	神奈川県川崎市高津区久地1-10-1 (044-822-2487)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	www.keins.city.kawasaki.jp/3/ke302801				
研究のキーワード	地域食材の活用 家庭や地域との連携 他教科等の学習との関連 主体的・対話的で深い学び				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前・事後のアンケートにより、学習前の状況や学習後の変容を見取り、指導に生かすことができた。 ○ 総合的な学習の時間や保健体育など他教科等の学習との連携を図り、3年間で教科等横断的な授業を行うことで、生徒が食生活を「健康・安全」の視点から捉え、これからの食生活を工夫し創造する能力の育成につながった。 ○ 主体的・対話的な学びを実現するための話し合い活動で考えたことを発表する際に、ICTを活用し、視覚的にも情報を共有し、解決策を再考することによって学びを深めることができた。 ○ ゲストティーチャーとして地域人材を活用するとともに、地域食材を活用した調理実習を行うことで、生徒の食生活に対する関心・意欲を高め、地域と家庭をつなぐ授業実践を行うことができた。 				

1 研究主題等

(1) 研究主題

食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する指導の工夫

～ 他教科等との連携を図り、地域の強みを生かした教材開発を通して ～

(2) 研究主題設定の理由

本校の生徒は、食生活への関心が高く、大変意欲的に授業に取り組む。しかし、学習したことを家庭生活で実践している生徒は少ない。それは、実生活において有用性を感じていなかったり、自分で食事を整えなくても家族が食生活の管理をしてくれたりしているためではないかと考える。

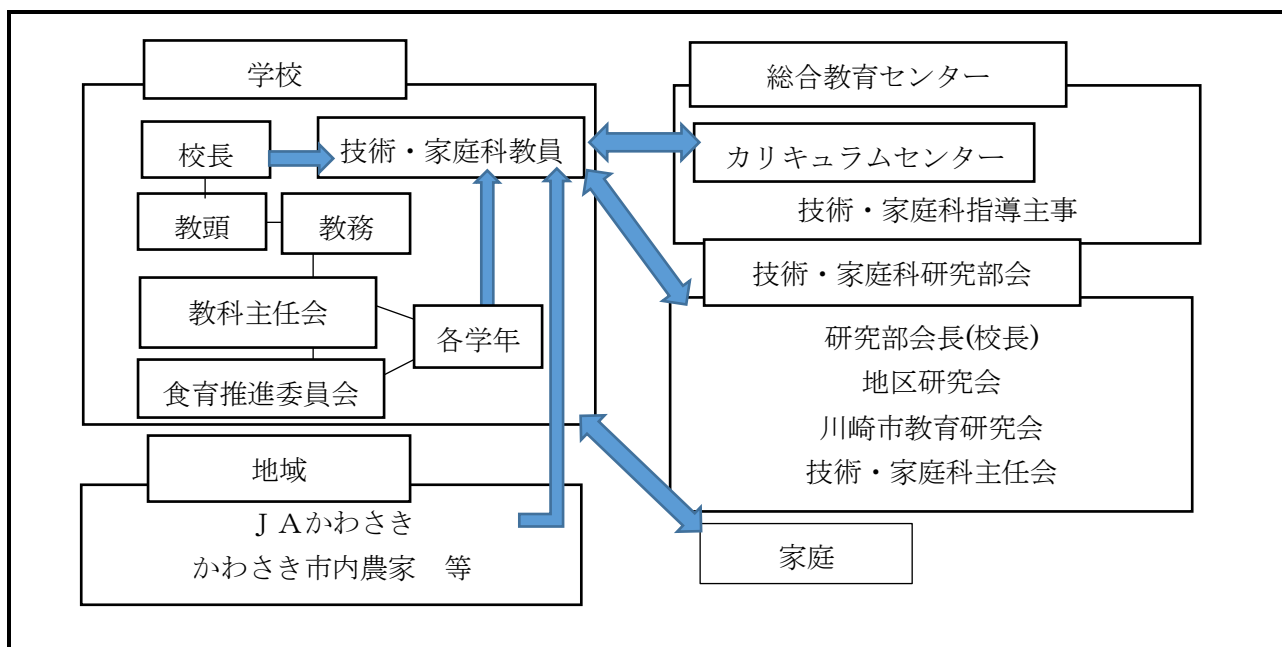
そこで、生徒が実生活において「食生活」を「健康・安全」の視点から考え、必要な知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して「食生活」の課題を解決できる力を養いたいと考えた。

「食生活」への関心をより高めるために、地域で生産されている農産物に着目し、地域や家庭と連携を図りながら学習へ取り組ませたい。具体的には、新学習指導要領の内容「B衣食住の生活」の食生活 (1)「食事の役割と中学生の栄養の特徴」、(2)「中学生に必要な栄養を満たす食事」、(3)

「日常食の調理と地域の食文化」、及び(7)「食生活についての課題と実践」の学習において、小・中学校5年間を見通した指導計画や、他教科等との学習や学校給食との関連を図った指導計画を工夫する。また川崎市では、昨年度から全市立中学校において給食が開始され、川崎市内で生産された「かわさきそだち」と呼ばれる農作物を使用し、給食を生かした食育の推進も行われている。その地域の強みを生かした教材開発や、家庭や地域との連携について取り組む。

さらに、自分の食生活を見つめ直し、工夫し創造できるようにするために、「生活の営みに関わる見方・考え方」である「健康・安全」の視点で捉え、思考力・判断力・表現力等を育成する指導方法の工夫について取り組む。これらを通して、進んで食生活を工夫し創造しようとする生徒を育成したいと考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

令和元年度	6月～7月
	① 川崎市内在中学校2年生を対象に「食生活」に関するアンケートを実施し、その分析を基にした中学校3学年を見通した指導計画の作成
	② 地域の農家等と連携し、地域食材を利用した教材開発
	③ 高津・宮前地区中学校教育研究会・技術・家庭科部会員への授業公開 令和元年6月9日(水)第2学年 「食から見直す私たちの生活～かわさきそだちを用いた献立(お弁当)を考える」
	8月① 川崎市内在生徒のアンケート実施結果の分析 ② 教科等との学習と関連させた年間指導計画の見直し
9月～12月	
① 「食生活」を工夫し創造しようとする授業公開 令和元年9月19日(木)第2学年 「食から見直す私たちの生活～かわさきそだちの食材を加えた魚料理の計画」	
② 研究の成果と課題を捉えるための事後アンケートの実施・分析	
③ 高津・宮前地区中学校教育研究会技術・家庭科部会員での指導法の検証・改善の検討	

	<ul style="list-style-type: none"> ④ 校内行事「トライやるDAY」での地域や他教科等の学習の連携 ⑤ 小学校と連携した指導計画の検討 ⑥ 研究成果と課題の整理，研究報告書の作成及び研究発表の準備
2月	研究協議会での研究成果と課題の公表
3月	川崎市中学校教育研究会技術・家庭科部会での研究成果の発表

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 生徒の食生活についての実態調査

- 1) 川崎市学習状況調査質問紙からの分析
- 2) 中学2年生を対象とした実態把握のための既習内容や食に関する関心等のアンケート実施

② 学びの系統性や他教科等（各教科，総合的な学習の時間，特別の教科道徳，特別活動）の学習との関連を図った指導計画，教材開発の工夫

- 1) 小・中学校5年間を見通した指導計画作成・工夫
- 2) 学校給食や他教科等の学習との関連を図った指導計画
- 3) 「かわさきそだち」の食材を生かした教材開発
- 4) 「生活の課題と実践」の効果的な位置付け

③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫

- 1) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせる題材計画や授業展開の工夫
- 2) 生徒が自ら学習を振り返り，学習の積み重ねが実感できるようなワークシートの工夫
- 3) 生徒の発表場面での効果的なICTの活用

④ 家庭や地域，学校給食と連携した取組の工夫

- 1) 地域の農家等と連携した教材開発の工夫
- 2) 家庭や生活の中から問題を見いだして，解決方法を考えるための実践の啓発

(2) 具体的な研究活動

① 生徒の食生活についての実態調査

- ・ 生徒の食生活の実態と既習内容や食に関する関心等を把握するため，アンケート結果の分析を行った。
- ・ 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査質問紙調査の結果から，「朝食を毎日食べている」の質問に「している」と回答した本校の生徒は83.6%であり，「どちらかといえば，している」と合わせると90.1%である。これは全国平均の82.3%を上回る結果であった。
- ・ 川崎市内中学校13校2年生（約2500人）を対象として既習内容や食に関する関心等のアンケートを実施し結果の分析を行った。アンケート結果から調理経験はあるが，継続して食生活をよりよくするために工夫し創造しようという意識は低いことがわかった。そのため，「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」に加え，食生活をよりよくしようとする意欲の育成が必要であると考え，題材計画や授業展開を工夫した。

② 学びの系統性や他教科等（各教科，総合的な学習の時間，特別の教科道徳，特別活動）の学習との関連を図った指導計画，教材開発の工夫

- ・ 学区の小学校との連携を図り，小・中学校5年間を見通した指導計画の作成を行った。
- ・ 第2学年総合的な学習の時間「地域の人々に学ぶ」の中で「地域の特産物」調べをしたり，保健体育「健康な生活と疾病の予防」の中で「生活習慣と健康」について食生活と関連させて学習を行った。第2学年社会地理的分野で「日本の地域的特色と地域区分」の中で地域食材について考える学習を行い，学習内容の定着を図ることにつなげた。

・地域食材「かわさきそだち」を生かした献立作成、調理実習の工夫を行った。

③主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫

- ・グループの話し合い活動をする中で、生徒が自ら学習を振り返り、学習の積み重ねを実感し、思考の深まりが分かるワークシートの工夫を行った。
- ・「かわさきそだち」の食材を活用したお弁当づくりの計画を通して、「健康・安全」の視点から課題をもって授業に取り組めるようにした。課題解決に向けた実践活動で、毎時間何を学び、それを次へどのようにつなげたいかを振り返りシートに記入することで、思考の流れの可視化を図った。
- ・献立作成等の話し合い活動で考えたことを発表するために、ICTを活用し視覚的に分かりやすい発表の形態を工夫した。

④家庭や地域、学校給食と連携した取組の工夫

- ・「生活の課題と実践」を第2学年の夏休みに位置付けた。「かわさきそだち」のお弁当づくりに取り組むことで、地域食材を用いることの意義を理解し、家庭と連携しながら継続して実践していく態度の育成につなげた。またゲストティーチャーを招いて、「かわさきそだち」の食材をより深く学ぶ取り組みを行った。
- ・給食の献立に「かわさきそだち」の食材が使用されている日には、放送委員会で食材や献立の紹介をし、生徒の食生活への意識を高める取組を学校全体で行った。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 事前のアンケートから食生活における課題を把握し、指導に生かした。事後アンケートから生徒の食生活への関心が高まり家庭で実践しようとする態度の変容を見取ることができた。
- 総合的な学習の時間や保健体育など他教科等の学習と連携を図り、3年間で教科等横断的な授業を行うことで、生徒が食生活を「健康・安全」の視点から捉え、これからの食生活を工夫し創造する能力の育成につながった。
- 主体的・対話的な学びを実現するための話し合い活動で考えたことを発表する際に、ICTを活用し、視覚的にも情報を共有し、解決策を再考することによって学びを深まめることができた。
- 地域人材をゲストティーチャーとして活用し、地域や地域食材である「かわさきそだち」についての理解を深めることで生徒の食生活への意欲を高めるとともに、実生活との結びつきを考えさせることができた。
- 自分の食生活を見直し、工夫し創造できる生徒を育成するための小・中学校5年間を見通した指導計画については作成途中にあり、今後も学区の小学校と連携を図っていきたい。
- 生徒の思考の変容や深まりから見取る学習評価の工夫に取り組んでいきたい。そのためにワークシートの工夫や見取る場面の研究をさらに進めていきたい。
- 生活の営みに係る見方・考え方を働かせる授業展開についてさらに研究を進めていきたい。

4 今後の取組

今年度の研究をもとに、自分の食生活を工夫し、創造できる実践的な態度を育成するため次年度は学習評価を位置付けた5年間の年間指導計画を見直し、工夫する研究の推進を図る。また、研究成果を学校全体や川崎市に発信する。